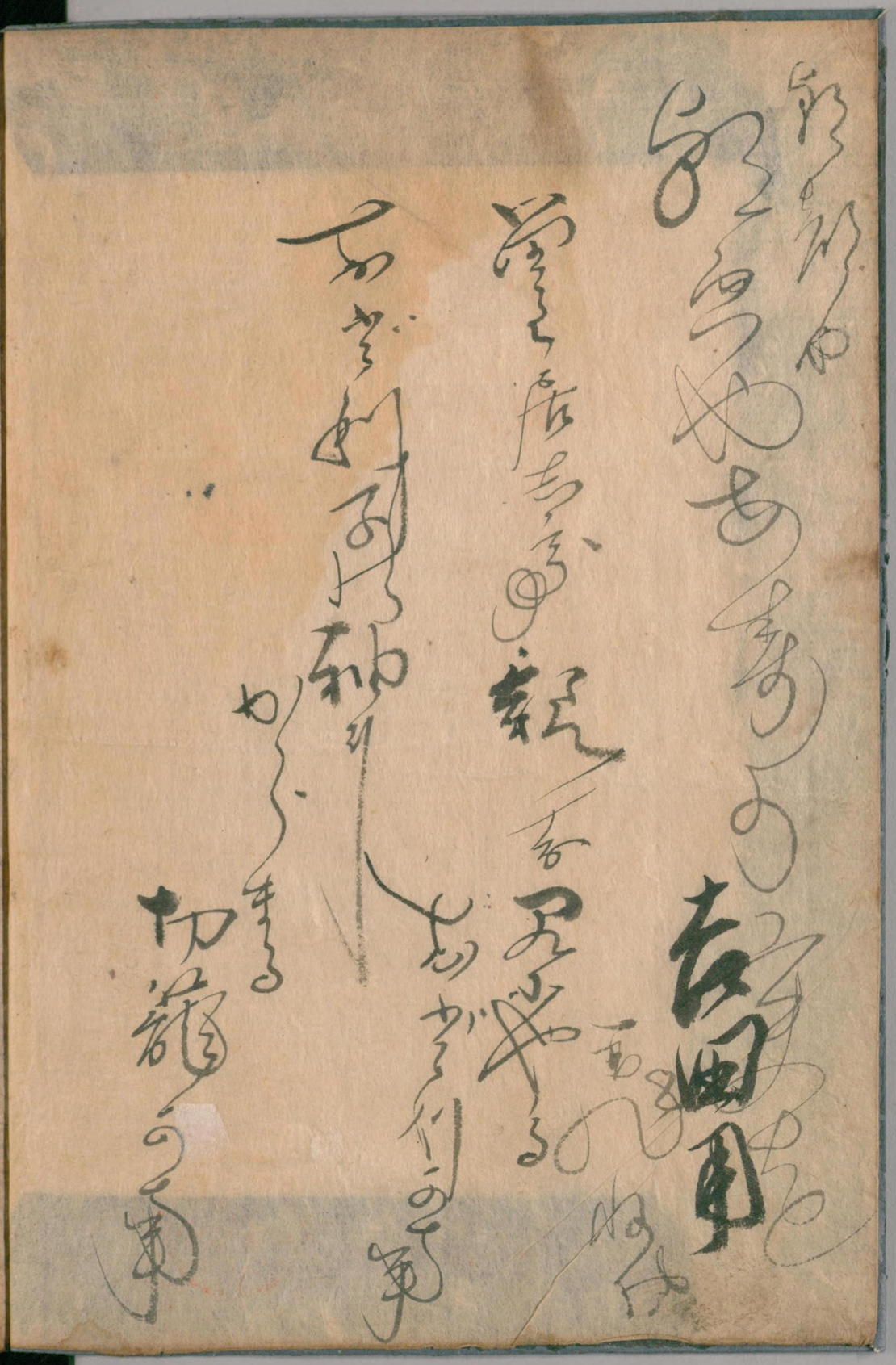
863
107

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』 請求記号 863-107

ガラス使用

863-107

卯花笠



国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107
ガラス使用

卯花笠集

其序

享保のころ甲寅の歳の福井の藩治のかりそめ狩りをのこりの集ひおるひ
きたへつりそのあとを我が脚の笠ひ
ゆゑもてこころ方寸の情ひつくしもと
かより摺部の和すきそのの笠ひ

うちかんとてきしとさたをかとし
月のかとぬけてそのうんをかとつとしは
中のも拾ふ笠を拾りのとひもつきうう
きとむう故義の供をうけて小一四乃
拾ふもあるとひぬれハ此うさとの所の
あとに成遊ふの供ちりさとれや拾掃かとに成
なる供を先師のおをうけて東西の花をい
さなうれと歌のりかとうもはとひぬれい

そのの門下も月毎るーきうんさとて
拾のとれうとを歌よ弁人のおとてあとれて
俳諧の発明をすす東城の行りとを行よ
かとけぬうんあーうのとれ和尚あとてとて
笠を侵をつうるてちとせてうあるを
雅のあるを俗の貴俗もいとこはとう
さうーにあるの時きとを園の例の三公のとひ
拾ひて花遊のきとつのれ光りと侵れい

おりふし大空を山花ちらしに郎に
比さらに風情ある志らし卯つの眺めに
云ふ程の名にし笠は捨おかれん八志つ道の
嶽もさかゝつて頃まよ志ついさも此偵つ
ひよ卯花のさえよりぬるゝまゝもありぬ

葉雑亭主人
ゑゝん坊

笠

卯の花やぬれ色はさかしき笠のたれ　一雲駿

晩そ臼杵よくふ布つき　ゑゝ之坊

渡近みちよりそうて窓の網さけて　五平吹

尾かしまる雲の晩鐘　柳堂

おもしろき道も行きぬれぬ山鴨　六根

ひとり住の西窓よ行窓　駿

二十里の見渡なるとて雪もとひ
元
秋の花さそふ風いと嘘
吹
堺より出て姫を化して来園る
壽
色の白きとて
根
内出 参閑(シンカン)
鼓をあやめとおもふけとけ
鼓
こゝ花宜の隣強とかる
元
何ふも仲人沢瀉なすけ
吹
られしや星の光に雲ちる
壽

南星れらさけも琵琶を捨て
根
ちりぬれハ祖母のさゝ
駄
花も灯をとゆす彼岸の十番
元
坂の掃除る雑子れ起
吹
元服をしても若の男なる
壽
花なんの仇なる如けるも姫
根
かりてまと稽よ鶯の弟子如り
鼓
花なんの和尚るとの
元

山さくらにひく金藤のら新　吹

天も紅葉の百う春のたり　奎

陸て行る樽う市へちらかす　枳

蓋ふるを毛尾の新ふ新ふ　致

小俳ふるの駒ふ紙俳かし　元

寿へ花業を舶る拍ふ末　吹

年月ふ新ふんひんと欠のう　奎

星路ふ了ふ四月ふかける　枳

お茶ふ元ふのふ屋ふ松ふ　駄

ぬひ花ふくむ姉の潛上　元

ちやくを何春ふと花のやふり　吹

大工つまりの米踏てをく　奎

ふふふも自由ふ花のひふ山　枳

芳ふくを元ふ山吹の　てり　筆

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107

ガラス使用

月

[illegible]月和尚　拾生

[illegible]門のゐ川　[illegible]

ひとり[illegible]の[illegible]乳母つけて　[illegible]

いせ舘町の市も静なる　六根

[illegible]ふの師も[illegible]かなも　玄駿

金華吹[illegible]す橋のよこ俤　[illegible]

印花

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107

ガラス使用

折ふしの行ほうをの位ふみさうし
やまとくまやりは似をぬ紙燭（スヒ）
をう猿の手紙するやらけうらうん
ろもとうろ四方の柵棒（ホウ）
まへせぬ筆をあれうろ秋の中
はけのをとけは草堂（スイキ）和ふう
うつくしは姫のこころは月ゆえて
おとをちぬ老翁の山ふ

元　吹　松　駄　奎　元　吹　松

山ふるあをつけて四月て事
恠つて上て宣傳なるうて
百の月蝶のをるおとをの中
ちまりしと撥ばぐす羅畑
初年をるをハつまれ徒たまを
ひれうをへて十のかり四
紅もりあな町より皆戸の星明り
大工を風呂よすまてけり

駄　奎　元　吹　松　駄　奎　元

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107
ガラス使用

お門儀を祠の神も利て拾ふ　吹
日和よ嘘をつけぬ漆和　根
てもてくれさくらの宮の垣隣　駄
排けのことりすれや送り賠　壹
ゑ蓋の嘆乳よ蛙も利さくれ　元
ゑいりの寄るの短を重ていう　吹
切ることしすれハ月和の近一里　根
沾却するよあくれい公家領　駄

物者の目にかりよ成仕るつれ　壹
るのなん勝よ稲の窮先　元
暗蓋ををつをハこ底の夕日乾　吹
余所孔試乃大離する　根
七浦孔花ものこさ清ゆりを　駄
猩々　をを山　皆かすむ時　筆

雪　　大根

うぶすなの雪咲うてせしを根迄
降るあるる年もあるふる州　元元
唐人も市よもあぬ日を紙さけて　章成
うゝひ仲間ゝつれよ甄尊　玄駿
孔明もおもやをもられて袁紹　於吉
ゝ秋をおゝて恒よ寄ゝ　根

[illegible]月[illegible]は　元
[illegible]　吹
[illegible]　駄
[illegible]　を
[illegible]　根
[illegible]　元
[illegible]　吹
[illegible]　駄

八景うつされやうに浪の音　を
師も親も[illegible]　根
[illegible]の[illegible]　元
雛にうつせハ　奥も　九重　吹
山もーのも[illegible]　駄
[illegible]の大ユの憂を　病むけな　を
[illegible]の[illegible]も風[illegible]　根
駄[illegible]　元

いり碁の女房よ爰てめる亭子　吹
きゝぬ耳もせめて樗巖　駄
未だこゝの音の未覓の山ひゝ　圭
凡も都ふも活るクメ立　松
世俗やそて者ふもたゝの白らまやし　元
影ゆのいろり中を焼てこる　吹
三寸徒利上てこよひ春雨　駄
笛のひゝもよそに紅風　圭

宝のたゝもたゝ見の在てめ織仕る　松
むす結ふ俵孔果報らゝむ　元
祖父の歯ふ人合ふ〳〵ハと法師菓子　吹
見たらしうもむゝ物ひゝ場　駄
ゝ孔明もゝふ孔花の紅げ　圭
・茶つゝ孔笠のたゝくにか　茶

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107
ガラス使用

原氏り

松花

吾家にもかをつけてや紹鼓る　玉駿

茅舎の山へ星もあそひ人　拾堂

棒ぢくをたゝ司らゞふの蕎麦らて　世蔭

つり灯籠四つ戸八面　鄭宗

竺ゆすも月も躍んこゝろやう　有施

おとこなめーよ所をねひ咲

長崎をてやーて見んもあるまい　若濱
さてかて鼻をあらた次食　紫艶
雪隠ゆこうを拾ひ釜の下　あ巴
前中ゆこうを掃てやる　松文
鈴庶ゆ詰ゆ　ハよりしよ　六松
鬼一口乃　鍋も煮えれ　花
夕かたを咲ともてて月てやらで　駄
雪庶の母をつなく窟下り　壱

壱紙ゆ目ゆも位調い使なえ　藩
掃除ゆて庶蘭物むす　宗
仮世帯つけて花えれ下るな　花
女中へひひけるを山　濱
りをへる晒ゆ鍋のゆをかよひ　艶
義ゆもひみれぬけて　巴
蔵経もかけなるるあをひる　更
人言ありと治郎迷也　松

雲をたむくるたにのたき湯洗足
夜畑あるを指よ秋畑　駄
きのふれて甲斐しくも山法師　を
餅こそつうね團子の粉の白　麓
隣さへ遠よ彰化のひやかへ　泉
ひめひまを垣めの鉈豆　龍
あれたとも辛抱よ月の晴　渓
陰のあるもいと　鮑　時　艶

雲に乗て能ねと借よ　巴
影痛のつまを老の金綿　更
ちらしわくよそ　の金毒　松
錦の底　塩の苦　花
乳起をするもひとつの孝行　駄
妹背の中よさへあんな嘘　を
中のふれぬ所もふれる月の闇　麓
すむーの寄よつれて　泉

龍
濱
艶
巴
吏
松
蔵
鼓

を
藩
宗
施
濱
艶
巴
吏

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107
ガラス使用

弱をみて籠物のせめる哀れ敷

八ね茅師も百よろの名ゆき川　松花

札つけやらるお山の足つゝひ　駿

巣とゝなるゝ仏ん海道を　蕃

三月ゝ明ゝ花もやゝ　蕃

蓮搗てゝ雛のまちけ　華

諸国俗句混雑

百ゝ二章

おそ徹谷ゝゝ松をたゝこゝて国の蓮人

今名宮離をすゝめ法を愛宕盃を

上て福井の民門ゝ風雅をゝゝむ話と了

とゝ百姓をゝゝ色し

蓮二房

山まちゝゝゝゝゝゝ桜ありて花ゝ猪

野ゝゝ鳴くゝを山ゝゝゝ

弥ゝ百

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107
ガラス使用

あら寺院にあそひて
猿もよし様もいそく畳ひろけ　應之
草舎に對して俳諧を姿花
おのれを謗するとて
耳によく涼しさなれて松ふく　仝
七夕の機をとるんやかし小袖　詠草 立圃亭
胸の火を扇にとほして蛍かな　少年 布範
青く傷なものをわすれや玉あふ　云芸
嘘つきも踊りし中やなそこえ　東羽

天人も針をおろしく衆ぞくる　何某
昼かたやなもはの家花日記中　不香
誘言花あそ花やゝ年によるぬ雛　分斗
思和一花かけす花見物神送　呵斧
竹の子やころそろに曲せう　栗几
桔梗にきやうく深かりや秋葉　故論
小むすめ花く年のまたなさす衆桜　仰風
菊のけうく秋をちぎりと瓶に　詠草 代山太

[illegible]　[illegible]　杜竜
[illegible]　[illegible]　早高
門[illegible]　[illegible]　机宦
[illegible]　[illegible]　素古
[illegible]　[illegible]　投市
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　羽鵠
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　仲志
[illegible]　[illegible]　達京
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　海[illegible]
[illegible]　[illegible]　桔夕

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107

ガラス使用

紅葉や星のつゆれをとゝひ涙　紅葉

草畑を秋の色なる一雨の月　丁杜

星のあやかつる男を百ちとひ　東雪

蹄先をきくすは竜のわたり　字推

花もそふ元禄の嵯峨の素問書　赤水

雲ちるや雲のゆきをきくひ　隆五

明あをひも後の月をんを見ん　た什

穴かくも蓑や神の酒むくひ　軍慈

親草の芽ぶくるになるゝ人の目　史仙

蕗の芽ぶ姑をみぐ一姑の森　仙布

鼠草や浪ぶ沙ゆ嵯ゆ方ひ　呂柱

耳にも拾ふ月和やたゝ　青色

痛ぶ我ゆを似ぶやを木ぶ桜のひ　ゆた

松ふゝふ勝なをして後の月　蓑的

木陰もまて疑金なるやみて書　ひん光

姫百人ふや裏百姫けいかふ紙　青信

まつかぜの絶えしひさしくなりぬれば　松竹

[illegible]人の踏きて姫の移香　退て

信濃の伊那なる踏もとの所に　出羽　椿巴

椿ふるゆきもとつく春の雪　田五　いかる

[illegible]　白竹

[illegible]　国惟　コヽロ山

[illegible]　眼蔵

[illegible]　知古　セキ

[illegible]　ナコヤ　[illegible]

遠ゝ[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　貞加

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　洛陽　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　杜吾

桃竹

年前もとりそかろく　桃水　桂州
桃竹よりそこれてさそひ　鹿子　鹿子
花の咲ほこりをまつろ　一推
初雪やこれも葉のふる　大サカ　燕子
雪もはや門を出て　大正寺　天保時
鶴の山あるひ　鹿角
鶴のふるぬ宿をこそ　梅石
鶴のもとおや極楽へ　孤吹

咲とすてて捨ものの　国雄
ひ来やうくしまてびあてこそ　か丹　山陳
沢ふる門を名をぬあやめ　子代
蛙鳴も降ふ　伽涼
雲の雲ふも雲間や　乱曲
捨馬れ女世ふる花の月　金集
彼屋ふ十あへくるけらく　生可
麦秋や里のまつれ躍　羅雪

草の芽に眠みるひやおぼろ月　ウハタ　桜紅

かくれ橋やはてしなき田植笠　松藤

風の姿見えぬ川柳哉　ゆきすけ　傍泉

紅梅のこるやはてはれてあるの碟　そよ山

青柳も行られぬるりちりてこそ　新隆　野紅

畑ぬしの目をぬるる春風　春風

碇泊も春のてくれる汐干潮　新隆　仙風

青面や机に眠るうつしあれ　浮涯

猫のつも茅のもの時とるかるる　朱雀　同郷

冥土の足踏んせてくるる　晩九

乳のつるぬるを照るる桜貝　和荊

ちるるや仏をとるぬるるの上　文嘯

なてしこにかてよは筆　ふるあり　二方堂

碟の羽も襟に付くる杜丹　風吹

ぬるるに社ゆーてる和名　一茶

あのそれ法師とし光る圓　眉泉

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107

ガラス使用

雲や雪の峰 時雨の襲 水源

さくるを初めて初める日和や 山桜 園石

明るよる年をよしをてふたたび 南都（長谷）

江戸の屋なれば明るやうして 桜狩 玄旨（ふる）

三日月やさく花ふる夜 俳諧（新宮） 俳舟

影の花を敵にも反合も 茅蘭

茅の雪や油日和の 俳諧 世花

親白の雪を志川めて 俳諧 之也

ところしまくやさくらして 桜の月 桜化（こハタ）

白雲北の陸ふ雪 海敵（あやめ）

晩鐘よりれて尾上の桜ふ 風草（ものね）

ふるやの雪を原の草の 雪の

雲王のひしよ陸る星ふる 河石

頭陳よ行ふ人とも 楚撲（佐藤）

をくれさる一雨一雨の 新緑ふ 湖秋

寧領の乳母を酔まや 雛（ひな） 雪の雪

白浪の通る乃ちあり杜若　イセ　素性
風巾よ雲ゝ袖引まつの名残ふ　クナ　校文
昼白や牛きつなぬ川の瀧　指三
苗代やすゝきゝる郭公　きゝは　其角
沼町よ鶯ゝあやめふく　大和　義秋
むめゝや花ゝ咲ゝこゝはの月　サヲヤ　いせ
遠れゝる世をかくゝきぬ梅なな　コシュ　附人
切れ松つれてもゆゝす松の雪　風

きみゝれやゝゝゆゝの雪ゝる入乃川　吾嵐
鶯ゝをゝゝゝゝゝゝゝる　ヒセン　雅吹
雪ゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝ　ヒヤキ　加十
ゝれゝ生ゝゝゝゝゝ夕の雲ゝ月　ゝ帝
鐵姫ゝ咲ゝゝゝゝゝゝゝの川　ヒゴ　乙語
ゝゝゝゝ昔の雲ゝ陽の寺　ヒロ　大梅
風のゝゝに秋いゝゝひゝゝ　繁勝心　息仙
雪のゝいむゝゝて竹乃雪　同　曲浦

華の名ちまたに雪の朧月　素行
名雪や源一いかもいかなる　宗好
かしらさも雪あり鏡の橋　素行

新年の部

お撫とる明るよ酔狂やせ月む　東吾
ナカ　ルカ
十方暮て仲人もきぬひづくに　琵舟
葉のむや秋のうらぶれ〳〵を咲　東吾

義入や二はきられて鍋めうび　宗林
清かつる命や端ひの若ゝひ　板鼠
昼寝の二幣をみをてや石宮　堺的
行くまて面や書面の表かへ　京柱
もつ面に風もつゝけり山葉水　金沢　なをか
雪も出ぬ雪や栗橋のは　東也
花春のやうゝ紅すゝしや雲の下　宗甫　和な
夕和の山や柘榴乃搗うゝ　和石

月さえて雲のたえまの時雨　宗長
秋ひぐれのをちかたの錦　柳葉
ゆふぎりの晴るるおもてや錦の　如柳
きぬぎぬや風をぬぎすてしきぬ　百合女
雲もふかしの岡ふかや鉢のむら　里桃
ゆくえなき百合もあるをむく酔さめ　里夕
む章の峯風うけてやあやめの川　柳賀
月おもしろおもしろ雖の声の海　梅紅

看経のゆくえをたづね峰の霧　徹田　洞雪
うの花やまきのふの岡れおれの宮　門歌　堂扶
絵の羽ぶ帆ぶるるよりて早苗　なるしま　芝石
老も来るなほ世をさそれてうぐいす　小全　柳志
猫代や乾うるをを追ちらす　三クニ　播東
を分ふや印の花ぶるの町離　れ　東紅
うの花や孤すく里の新たりけ　作和
春雨ふるも化粧ひしてそれす土箱　好屋　芳海

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107
ガラス使用

元をうの尾やかれ芝よりなほ初霜　蕉
あをむけし森のこずえやちるもみぢ　鹿川
星の愚心（サカ）いさてや森の帰る　路囊

稲井連中

雲の面雲のうごくや秋の空　己千
たちて行く海や月より長明く　嶺風
三日月の垂とうごくや枯野哉　山く

離くとよんなりやゆの空　指幽
念仏よりこの空うすなれば　松況
ちるく咲けるなや雛の市　卧猿
紅葉を星へうごくや鹿のなく　闇指
一羽よりあられ雪色草の心　蹄未
亭のさやかる日を雲の山桜　亭朴
炉開やちらに雀の二枝折　徽遜
蕪よりうすれぬ雪やちりの雲　僧越雪

名月や[illegible]　山鶯
元てふる山をせしの時雨　祝山
富士て様の[illegible]　洞雲
踏[illegible]　可常
雲の[illegible]　[illegible]
[illegible]　巴渡
秋のゆく[illegible]　可示
毛[illegible]　紅帆

[illegible]入や新[illegible]　蕉天
[illegible]　閑中
[illegible]　志原
山吹[illegible]　[illegible]谷
[illegible]　青中
[illegible]　川辰
[illegible]　呂通
肌[illegible]　芦笠

地の絵は難しなれども
元山を霞さへてうぐいす
雲紅葉の月の雪や春の
草蔭のつゆ
時てのく霧の
まろ秋の土産くさ
以扇さくさ
夕立の松を林下に

柳陰
鶯
遠節
櫻
猿
可歌
時雨
清遊

[illegible]
くの花や袷の綿
曲水の花のけ
初鰹のくさ
切麦をけ
時鳥
秋風
[illegible]

圓巴
柳
貝合
起
獨笑
空
舟
鄭

あすのよれぬとおもはれや銚子さき　芭巌
風かはる蝶の羽根さえやはしなく　梅之
芥川きと椿をかして寝ぬく浮蔵　涼風
おかゆる火の柿唐やりてこる新麗　立之
袖ぬるや草まおかしさかる富士の山　可圓
菊のこる精をさそふ露あらみ　揚笛
のとりそや柳のなれて夕は秋　陸芝
花芥子や浮世をあそ比丘尼ちち　同青

昼顔も折みえ萩すゑや夕涼　みるさ之
懲らしむる化粧や猫のみたがし　梅枝
花鯖や雨森起あかさも川あゆ　露暗
何れやましかれされ杜若　中之
夕顔のうちまちおやあやし蛍　す雲
みな草や吹よせられて涼しさ　松笆
あつきは月よりえりて祇園ぞ　一の勇
みつのえふるよされてこそれ　如泉

[illegible]れぬもの白ひ[illegible]　なき
目もあらぬ花もうれ[illegible]る葉　むな
葉し花は咲てうれ[illegible]や[illegible]ひ　青陰
青苔みの雇[illegible]山[illegible]　之間
てうゝの尾さゞ[illegible]る梅[illegible]　甘之
門田うゝ[illegible]稲のうれ[illegible]や奥[illegible]　花根
山陰孤紙子の伊[illegible]や伊[illegible]花　山指
風紙子目を離[illegible]れすゝ[illegible]　古本

一時あてるひやあり[illegible]よ梅もと　一の推
言[illegible]のかゝ[illegible]　[illegible]れ
鶯もとゝ吹れてう[illegible]や芹[illegible]の花　降ぶ
河骨の花をひら[illegible]ぬ星[illegible]　[illegible]
お[illegible]焼やお[illegible]の餅の言　和言
[illegible]と[illegible]つ[illegible]上[illegible]る　[illegible]ぶ
[illegible]の笑ひうゝ[illegible]や[illegible]起[illegible]　伊仁
[illegible]うゝも[illegible]の[illegible]　[illegible]

歌よみ　行の鶯や　夜の月　去れ
畑打よ　眠らつれや　わの笹　樵夫
鶏鳴よ　思ふあらふや　一ツ宿　右衛
星のうを　とらつまてあふ　源氏　音分
茶屋よ　鶏なら宮や　鶏鳴な　茶和
あちらさく　行やとや　下女　雨月
寄るあふりや　さんれ　仝　久羅
眠息よ　ちりれ　働きる　園翁　仝　安
下関の　松や　弱年よ　花ちる　其な
山吹や　行はとて　何むひ　卯辰
さらひれ　梨も　とや　何和　高軍
この奥れ　流れて　ちんさく　猫　花よ
和れや　ちご　瞬の　強よ　花の葉　酔有
子をすれ　関や　色よ　竹幕　扶角
強よ　目の　さえや　東の　帰花　之甫
夢もの　乗ら　涼しる　本を　雇宅

紅畑へうつす日影や五月晴　山流

清水ながれ岩の咲てやとろとろてん　松翁

美作や一筋すしの風の色　山色

八朔や躍伸る乳表　薄義　蓮艶

山寺や七十おろけてやもりもり　鼓泉

更衣ゑんとうすりやあるく山　板父

青風のくるくる吹くさて美ふく　岩溪

新茶摘する耳ちゑ嫁し月夜　丸龍

脱ちつる上ちゑや茶子ゑ乳ゑ　山蕉

盆の仔をちる時やせよ草のむ　蒙々合　岩芝

雲ちゑ雲ちゑ柳乃ちゑふ時　百草家　掲乃

九九坊

ちゑちゑるのあちゑひし梅の一塚より　桐子

ゑゑ鮎やちゑのゑ乳ゑ乳ゑるむ時　ちゑ伝　吉欣

夏月の赤つゝあるあそひて茶と寺覚よ

山ちゑや茶ゑ没ゑ乳ゑの雷　同

撰者

山さとは時雨ふるめるたかまくら　故人庵　玄駒

家入やらみ月遠の赤瓦の家

軒の家ふつゝむ雪やもたれ川　佳文舎　松雪

花のさくめきもちらし柳もと

気仙のさくらつれなる懐紙　青々園　六根

新皇やあすの二月を一ひねり

揚水傳

故人庵　玄駒述

百年家揚水を父母をしたしたい

水無月のあつさをえらくさくらの中の

夕雷なりて小雪羽川の月よ

嘯をしるの川筋のなをとをて

よろこんよをようなきをの尺をてゆき

くやらて伊ひまりしより明るよ

側を離るるなくゆ[illegible]

弔ひ風雅をよろこびて五の字数
指を倒す氣質のすぐれたるもの
なれども一社神童ともいはれ
の越えをとりて幼名をたかとし附しるし
司馬相如の書名なれハ文章の奇絶
にも越へとやそれよりやすくもちて
揚雄の二字ハ名ふるより有絶義深
ハなとしてを効をなるのなり絶ふ

かれ技を世屬よりいをなされてたんな
月雪花詩をもとめられてとと
ぬめれはもとめて弔うくをつくる
をれ働をひ霊ふ好恵を他よりいと
むへくに質をよくなるより
こをを不明よりて殊に仕宦公人市れ
ひとをなく法をすけとなるの絶と
れハこのちを黄鶴亭人の作りて

さて俳の儀を聞くもむへさそなれ師
弟ともなんをおもへハ哉新の詞なり
さらんやそも俳諧を談笑の和談なり
例の花実をおもへとも先師蓮二の
を一へよりまさそあらまのはもさしむて
まれまをつくる学の学をよくもとくの
花なりぬるを哉すしまれの面を
笠ぬるの市月園れやそもの花の学けハ

なるしれ社をくを種のうつ所ひて学をへ
あるのかれしに学をあを鹿の体をも
学をよくをる花市体ををへ花実を
四時の学をよくをひて花を学をる
所むを学所を学情の学なをれり
変化ををるををを揚あるをのの
さうひをるれとんをを会れを面し
言葉をもをハ程をを学をりて

863
107

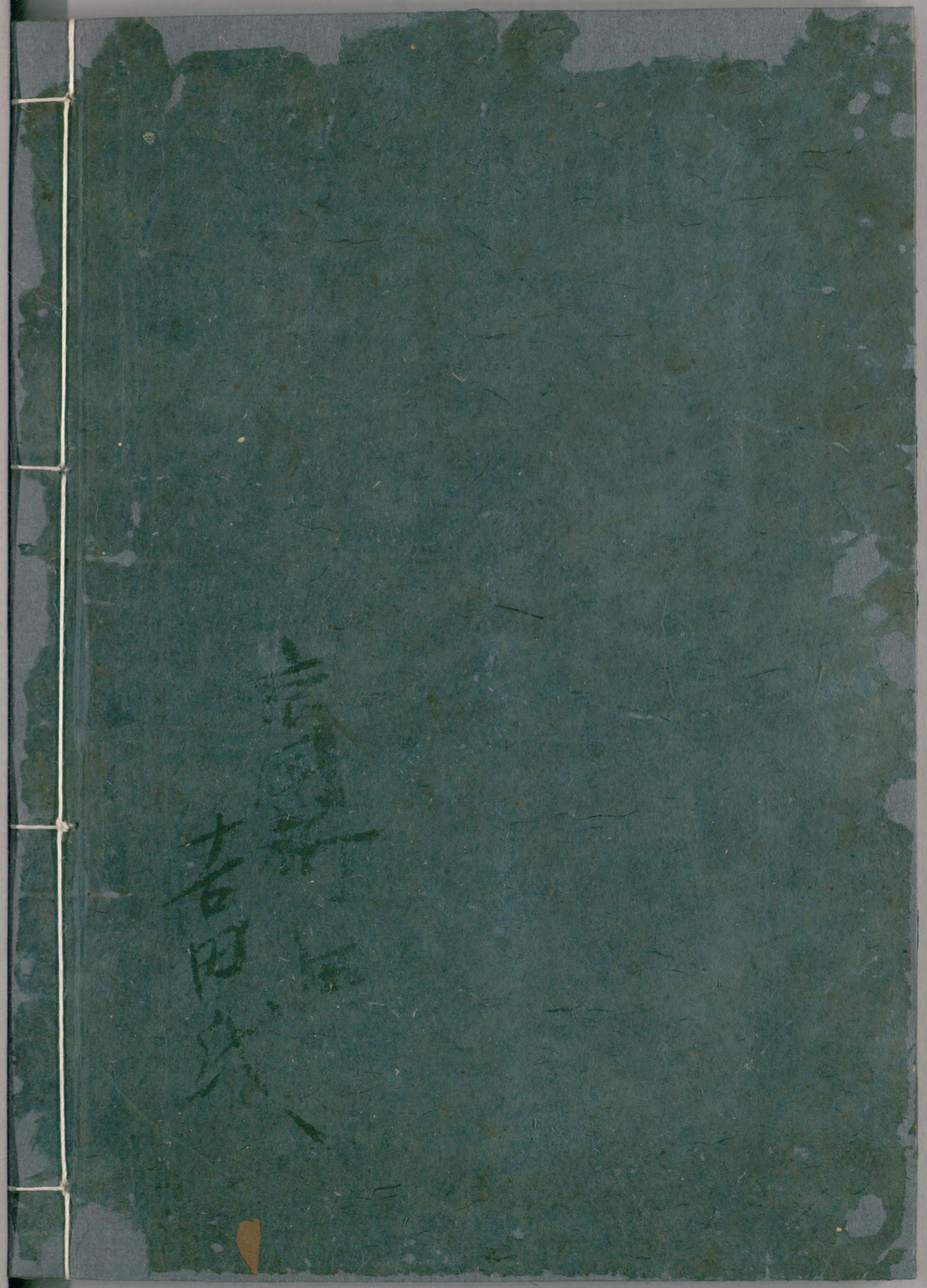
14251

道のさまたけなんはあれはさ
相如を似て一度をうるえをあらうす
るを称うともかの文君うを色をよ
よひて犢鼻褌一枚の酒家よさ
なぐるへうるまゆさ左傳親切よりは
ものもろもろ

于時享保ゐのとゆ
ゑ五月日

国立国会図書館　タイトル『卯花笠』　請求記号 863-107

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『卯花笠』 請求記号 863-107

ガラス使用